

# 2019年度版 黒留袖ボディ 要項

## (1) 課題の内容

- 黒留袖の着付(六通袋帯使用)をボディを使用して行う。
- 帯結びは二重太鼓とする。

## (2) 競技の方法

- 「ボディ補正、長襦袢着付」までの競技後、一次審査、「留袖着付・帯結び」の競技後、二次審査を行う。
- 選手の服装は上衣は白のブラウス、下は黒のパンツ（素材は問わない）。シンプルで清潔な服装であること。（肌の露出の多いものや、透けるもの、ヒラヒラするものは禁止する。帽子、スカーフ、ショール、アクセサリーも禁止とする。）

## (3) 競技時間

補正・長襦袢着付までの作業15分、留袖着付及び帯結び作業20分。

競技開始時には、衣装敷の左後ろに正座したまま「お願い致します」と挨拶してから、競技に入る。

## (4) 競技用具の準備 (選手が準備するもの)

① ボディ ※ボディの高さは台から肩先まで125cm程度

競技に使用するボディはスタイリングコレクション推奨品を使用すること。

※推奨ボディ「百日草トリー」はSPC通商で取り扱っています

※SPC会員以外の方は、ご自身でご購入・ご用意ください

※関西大会に限りお手持ちのボディでもOKです 2019.6.6追記

② 黒留袖

③ 袋帯(六通)

④ 長襦袢 (半衿付)

ボディの身長にあった長襦袢、留袖の袖丈と長襦袢の袖丈があったものを準備する。

長襦袢の色は白。半襟は白（塩瀬）、衿の仕立てはバチ衿、広衿のどちらでも良い。

⑤ 補正用具一式

タオル（色は白、枚数は自由）、コットン、ガーゼ（3.0m～3.3m切り目は入れておいて良い）

⑥ 帯じめ（平） 帯揚げ（白に限る）（平、絞り自由）

⑦ 小物付属品

・肌襦袢、裾よけ（ワンピース型でも良い）・腰紐（5～6本）・帯枕・帯板（ゴム付きは不可）・

クリップ・衿芯（奉書紙などの和紙かセル）・伊達締め、または伊達巻き2本（長襦袢及び着物用）

衿芯の指定なし（関西大会のみ） 2019.6.14改訂

⑧ 扇子（金銀） 着物と帯の間に挟む

⑨ 衣裳敷き(120cm x 180cm以内)

⑩ 衣装箱（通常の衣装箱及びそれに準ずる箱を必ず持参し、大きさは縦44cm×横64cm×高さ25cm以内とする）

※プラスチックの衣裳ケースや手さげ型の衣裳ケースは除く

## (5) 着付け競技に関する注意事項

- ① 衿とじは、事前にやってくること。衿芯は事前に入れて良い。
- ② ものさし、メジャーの使用は認めない

- ③ 助手の使用は一切認めない。
- ④ クリップを留めるための、ポーチや腰用のエプロンの使用は認めるが、タイム前にそれらにクリップを留めることは認めない。（スタート後はOK）
- ⑤ クリップの本数は自由だが、目盛り付きでないものにする。目盛りが付いているものはテープ等で隠すこと。
- ⑥ 極端に完成されたボディ補正道具の使用は認めない。タオルをたたんでおくことも禁止。
- ⑦ 補正を止めるための、テープや包帯止めは使用可。
- ⑧ ボディ補正のパットやタオルはとじ付けておかないこと。
- ⑨ ひも付きのおしりパットも不可。
- ⑩ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑪ 帯に形付けをしたり、帯結びの課程につながる過度のたたみ方は認めない。
- ⑫ 袖の板紙使用は、撮影時は良いが、競技の際の使用は認めない。
- ⑬ 帯締めは中心で結ぶこと。
- ⑭ 競技終了後、選手はボディに一切触れてはいけない。

## （6） 衣裳類の禁止事項

- 1：黒留袖
  - ① 身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
  - ② おはしより紙は使用禁止とする。
- 2：長襦袢
  - ① 衿は自由とするが、半衿は必ず縫い付ける。
  - ② 特殊加工をほどこした衿や刺繍の入った衿は認めない。
  - ③ 後衿の力紐は使用禁止。
- 3：小物
  - ① コーリンベルトの使用は認めない。
  - ② 帯飾りは禁止とする。

## （7） ボディに関する注意事項

- ① 事前にボディを会場で預かることはできないため、ボディは各自が責任を持って当日の朝に会場に持ち込むこと。
- ② 会場での受取はできないため、宅急便などで会場に直接送ることは禁止。
- ③ 会場からボディの発送は出来ないため、ボディは各自で直接持ち帰ること。

## （8） その他の注意事項

- ① 競技中に選手同士またはモデル、観客と会話等をしてはならない。またアドバイスも受けてはならない。
- ② 競技中道具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 小物や道具に名前やイニシャルなどを表記しないこと（ひもやクリップ、箱に名前を書かない）
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視員の指示に従わない等の行為は禁止とする。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、タブレットの競技会場への持込みは禁止とする。控室競技中も持ち物から出すことも禁止とする。
- ⑥ タイムを計るためのタイマー、時計は禁止。
- ⑦ 競技中に選手が時計、ブレスレット、指輪を身につけてはいけない。
- ⑧ 競技用具は、大会当日の朝、競技が始まる前に、監視委員が厳重に点検を行う。
- ⑨ 忘れものの申告は監視委員を通すこと。

【競技会場 たとう紙、衣装箱、選手靴、モデル草履の配置図】

